

# 秋田県埋蔵文化財センター年報

## 3

昭和59年度

1985・3

秋田県埋蔵文化財センター

## 秋田県埋蔵文化財センター年報 3 正誤表

| 頁  | 行  | 誤         | 正         |
|----|----|-----------|-----------|
| 1  | 6  | 頁岩の剥離面    | 頁岩の剥離面    |
| 1  | 7  | 搔器など      | 搔器など      |
| 1  | 9  | 横長剥片を     | 横長剥片を     |
| 5  | 10 | 剥片約5,500点 | 剥片約5,500点 |
| 6  | 7  | 剥片約2,500点 | 剥片約2,500点 |
| 6  | 8  | 須恵器□が     | 須恵器坏が     |
| 19 | 19 | 岡村道雄、技師釜石 | 岡村道雄技師、釜石 |



## 序

昭和59年度に秋田県で実施された発掘調査は46件である。

例年学術調査といえば払田柵跡、秋田城跡のみであったが、今年度、鹿角市と本荘市において学術調査が行なわれたことは、開発事業に伴う緊急発掘調査が増加する中で、まことに喜ばしい限りである。

当センターで実施した発掘調査は11件である。今年度の調査においても学術上貴重な成果が多々得られたが、就中注目すべきは河辺町の風無台Ⅱ遺跡、松木台Ⅱ遺跡から出土した8,000点余に及ぶ旧石器時代の遺物である。殊に東北地方で初見の台形様石器は、我が国の旧石器時代研究上極めて重要な位置を占めることは疑いない。

このような気運から当センターを会場に実施した研修会には筑波大学教授加藤晋平先生を招聘し、旧石器時代に関する貴重な講演をいただくことができた。

また、54年度から行なわれた東北縦貫自動車道関係の発掘調査は昨年度で完了し、今年度、2冊の報告書を刊行した。総計12冊、5,000ページを越える報告書は、県北地方の歴史研究上、欠かすことのできない資料となろう。

昨年、一昨年とセンター内で行ってきた発掘調査報告会は、今次趣向を変え、大曲仙化広域交流センターで開催し、同時に大曲市内のデパートに出土品を展示して好評を博すことができた。今後も積極的に会場を外部に求め、文化財保護思想普及活動をより一層推進したいものと思う。

昭和60年度からは東北横断自動車道秋田線の発掘調査を開始するほか、市町村においても調査の予定が伝えられている。関係各位の一層のご理解とご協力をお願いしたい。

昭和60年3月

秋田県埋蔵文化財センター

所 長 齊 藤 養 治 郎

## 例 言

1. 本書は昭和59年度における秋田県埋蔵文化財センターの事業概要をまとめたものである。
2. 本書のうち県関係調査概要は各遺跡の調査担当者が執筆した。
3. 家の上遺跡調査報告は児玉 準が金ヶ崎遺跡調査報告は教育庁文化課学芸主事富樫泰時がそれぞれ執筆し、本書に収録した。

## 目 次

序

例 言

〔今年度の発掘調査から〕

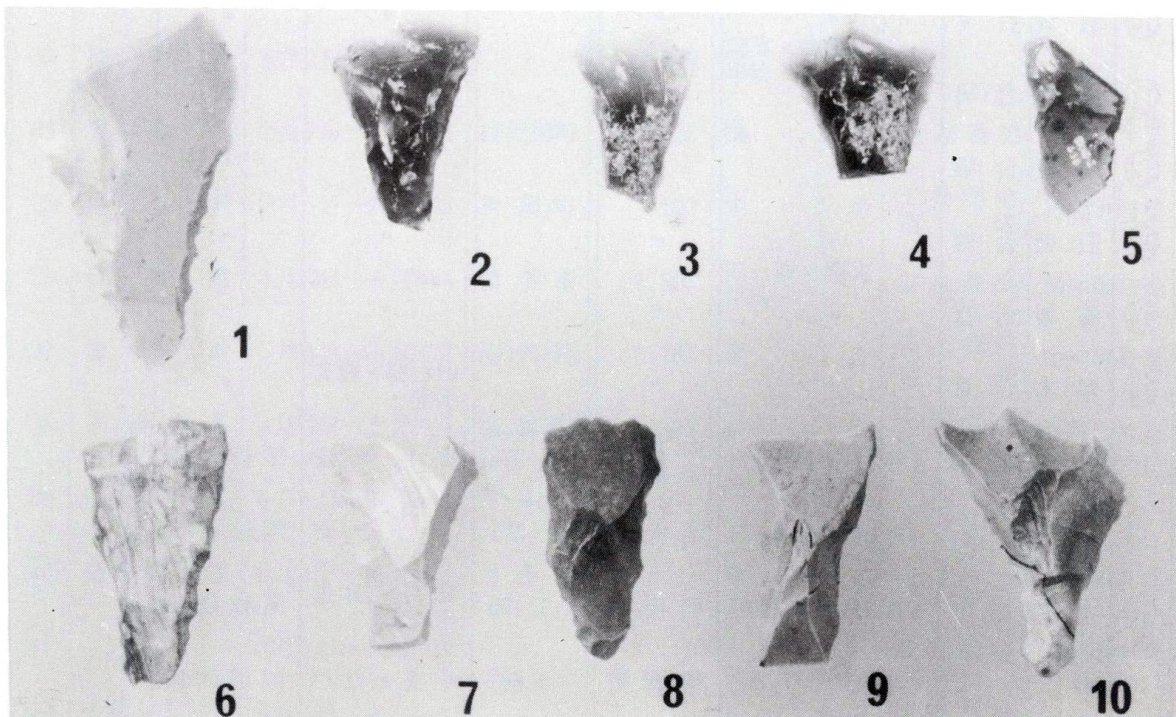
|                   |    |
|-------------------|----|
| 1 昭和59年度事業内容…………… | 2  |
| (1) 県内調査遺跡一覧…………… | 2  |
| (2) 県関係調査概要……………  | 5  |
| (3) 立会調査報告……………   | 8  |
| 家の上遺跡調査報告……………    | 8  |
| 金ヶ崎遺跡調査報告……………    | 12 |
| (4) 研修事業……………     | 15 |
| 2 資料紹介……………       | 18 |
| 3 センター日誌抄……………    | 19 |
| 職員録……………          | 20 |



## 昭和59年度の発掘調査から



**払田柵跡 S F 690 築地土塀** 内郭南門西側から南に約12m延び、さらに西に曲がる延長 20.8 m、最大幅 4.6 mの築地土塀である。地ならし整地及び版築による基礎地業を行い、その上に幅 4.2 m～4.6 mで石を並置し、部分的に 2～3 段に積み重ねた後に築地本体を構築したものと推定される。石の大きさは 20～120 cmまで変化に富み、1 個 1 個切りそろえた状態ではないが、頁岩の剥離面を利用して組み合わせ、築地本体の外면을意図的にそろえたもののようである。



**風無台Ⅱ遺跡出土  
台形様石器**

風無台Ⅱ遺跡からは台形様石器、搔器など約70点の石器を主として、約5,500点の旧石器時代の遺物が1箇所に集中して出土している。台形様石器はいわゆる枝去木型、日ノ岳型、ウワダイラ型と呼ばれるものに類似しており、全て横長剥片を素材にしている。石材は頁岩が主で、これに黒曜石、チャートがわずかに混る。なお、同遺跡の西方120 mの松木台Ⅱ遺跡からも似た内容の石器群が出土している。



# 1 昭和59年度事業内容

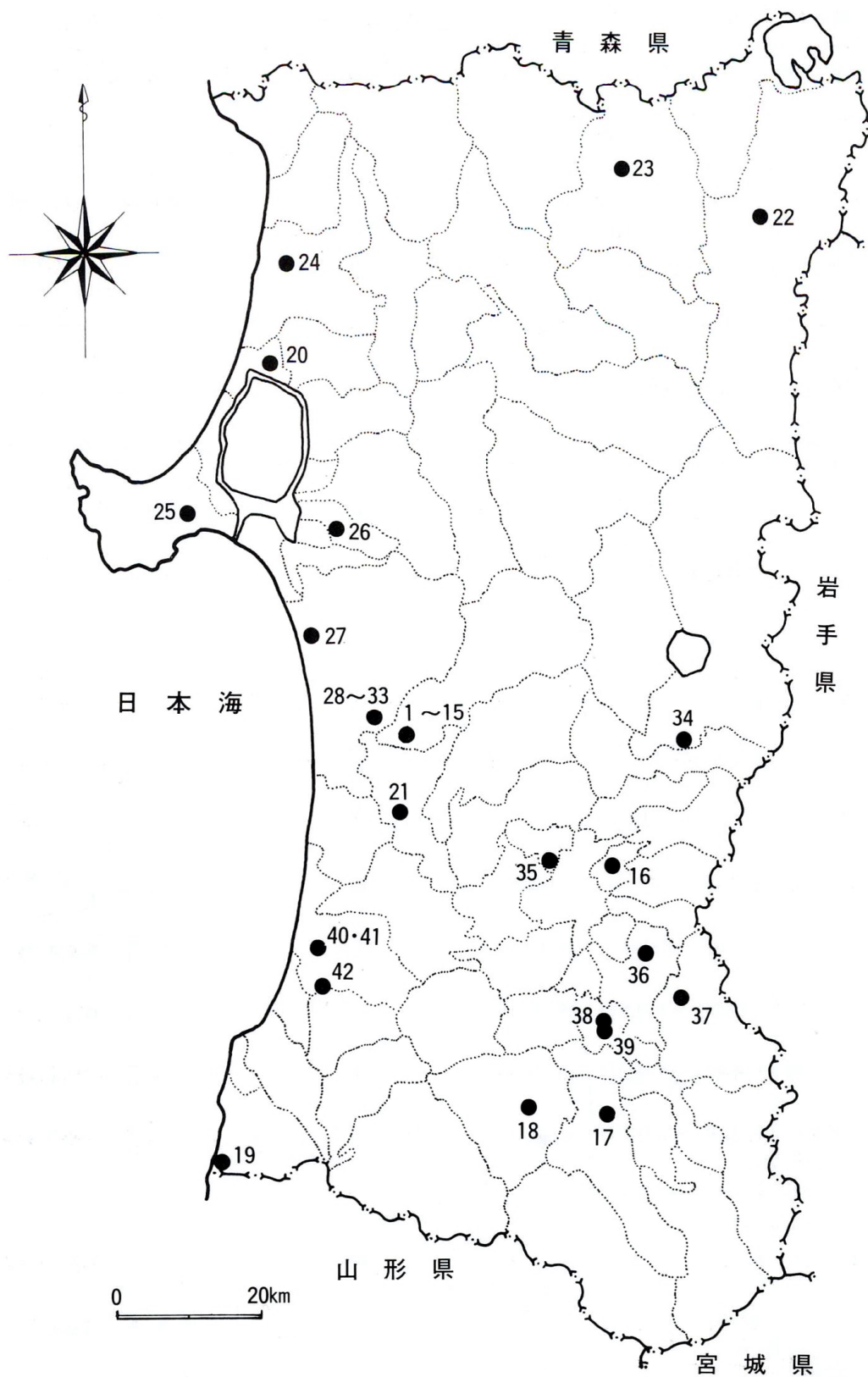
## (1) 県内調査遺跡一覧

| 番号 | 遺 跡 名      | 調 査 期 間     | 所在地            | 面 積    | 時 代             | 原 因              | 調査主体  |
|----|------------|-------------|----------------|--------|-----------------|------------------|-------|
| 1  | 風 無 台 II   | 4月2日～5月31日  | 河 辺 町          | 11,600 | 旧石器・縄文<br>弥生    | 工 業 団 地<br>造 成   | 秋田県教委 |
| 2  | 風 無 台 III  | 5月4日～5月29日  | 〃              | 1,740  | 縄 文             | 〃                | 〃     |
| 3  | 風 無 台 V    | 5月12日～5月19日 | 〃              | 3,482  | 〃               | 〃                | 〃     |
| 4  | 松 木 台 I    | 4月12日～4月28日 | 〃              | 2,520  | 縄 文 ・ 弥 生       | 〃                | 〃     |
| 5  | 松 木 台 II   | 4月2日～5月31日  | 〃              | 7,464  | 旧石器・縄文<br>平安    | 〃                | 〃     |
| 6  | 石 坂 台 I    | 8月22日～9月22日 | 〃              | 3,728  | 縄 文             | 〃                | 〃     |
| 7  | 石 坂 台 II   | 4月12日～5月2日  | 〃              | 3,670  | 縄 文 ・ 弥 生       | 〃                | 〃     |
| 8  | 石 坂 台 III  | 5月28日～6月21日 | 〃              | 5,720  | 縄 文             | 〃                | 〃     |
| ⑨  | 石 坂 台 IV   | 9月11日～9月28日 | 〃              |        | 〃               | 東北横断道<br>建 設     | 〃     |
| ⑩  | 石 坂 台 V    | 〃           | 〃              |        | 〃               | 〃                | 〃     |
| ⑪  | 石 坂 台 VI   | 〃           | 〃              |        | 〃               | 〃                | 〃     |
| ⑫  | 石 坂 台 VII  | 〃           | 〃              |        | 〃               | 〃                | 〃     |
| ⑬  | 石 坂 台 VIII | 〃           | 〃              |        | 〃               | 〃                | 〃     |
| ⑭  | 石 坂 台 IX   | 〃           | 〃              |        | 〃               | 〃                | 〃     |
| ⑮  | 松 木 台 III  | 〃           | 〃              |        | 旧石器・縄文<br>平安    | 〃                | 〃     |
| 16 | 払 田 柵 跡    | 4月2日～11月6日  | 仙 北 町<br>千 畑 村 | 1,276  | 平 安             | 学 術 調 査          | 〃     |
| 17 | 広 沢 山      | 9月10日～10月5日 | 湯 沢 市          | 575    | 平 安             | 国 道 改 良          | 〃     |
| ⑱  | 上 谷 地 中    | 6月11日～6月30日 | 羽 後 町          | 1,196  | 縄 文 ・ 弥 生<br>平安 | 高 校 建 設          | 〃     |
| 19 | カ ウ ヤ      | 8月1日～9月8日   | 象 潟 町          | 1,887  | 平安・江戸           | 国 道 改 良          | 〃     |
| ⑳  | 家 の 上      | 7月25日～7月27日 | 八 竜 町          | 68.4   | 縄 文 ・ 弥 生       | 地 滑 り 対 策<br>工 事 | 〃     |



| 番号 | 遺 跡 名       | 調 査 期 間      | 所在地  | 面 積    | 時 代            | 原 因    | 調査主体   |
|----|-------------|--------------|------|--------|----------------|--------|--------|
| ②① | 金ヶ崎         | 5月7日         | 雄和町  |        | 縄文             | 道路改良   | 秋田県教委  |
| ②② | 大湯環状列石周     | 7月10日～10月30日 | 鹿角市  | 1,900  | 〃              | 学術調査   | 鹿角市教委  |
| 23 | 矢館廃寺        | 8月27日～9月10日  | 大館市  | 471    | 鎌倉             | 公園整備   | 大館市教委  |
| 24 | 金山館         | 7月24日～9月20日  | 能代市  | 2,000  | 縄文・弥生・平安・中世・明治 | 〃      | 能代市教委  |
| 25 | 延命寺台        | 6月11日～7月20日  | 男鹿市  | 1,222  | 縄文・弥生・平安・中世    | 道路建設   | 男鹿市教委  |
| 26 | 大野地         | 5月22日～7月25日  | 井川町  | 1,000  | 縄文             | 土採取    | 井川町教委  |
| 27 | 秋田城跡        | 4月16日～12月4日  | 秋田市  | 1,884  | 平安             | 学術調査   | 秋田市教委  |
| 28 | 下堤E         | 7月30日～10月16日 | 〃    | 3,340  | 縄文             | 新都市開発  | 〃      |
| 29 | 下堤F         | 9月2日～12月1日   | 〃    | 2,950  | 〃              | 〃      | 〃      |
| 30 | 湯ノ沢D        | 5月10日～7月28日  | 〃    | 3,220  | 〃              | 〃      | 〃      |
| 31 | 深田沢         | 10月16日～12月7日 | 〃    | 3,320  | 平安             | 〃      | 〃      |
| 32 | 坂ノ上F        | 4月1日～9月7日    | 〃    | 18,800 | 縄文・弥生          | 〃      | 〃      |
| 33 | 狸崎A         | 8月2日～10月16日  | 〃    | 1,910  | 縄文・弥生・平安       | 〃      | 〃      |
| 34 | 黒倉B         | 7月9日～8月31日   | 田沢湖町 | 432    | 縄文             | 道路改良   | 田沢湖町教委 |
| 35 | 小沢          | 11月5日～11月8日  | 神岡町  | 100    | 中世             | 工業団地造成 | 神岡町教委  |
| 36 | 台処館         | 4月23日～6月28日  | 横手市  | 1,500  | 旧石器・縄文・平安      | 学校改築   | 横手市教委  |
| 37 | 道地          | 5月4日～5月17日   | 山内村  | 182    | 縄文             | 郷土資料集収 | 山内村教委  |
| 38 | 下藤根Ⅱ        | 9月10日～9月20日  | 平鹿町  | 330    | 奈良             | 工場用地造成 | 平鹿町教委  |
| 39 | 年子狐Ⅱ        | 6月6日～6月26日   | 〃    | 1,000  | 〃              | 〃      | 〃      |
| ④⑩ | 菖蒲崎貝塚       | 8月20日～8月25日  | 本荘市  |        | 縄文             | 河川改修   | 本荘市教委  |
| 41 | 〃           | 10月5日～10月14日 | 〃    | 1      | 〃              | 学術調査   | 貝塚研究会  |
| ④⑫ | 本荘工業団地予定区域内 | 6月19日～6月23日  | 〃    |        | 縄文・中世          | 工業団地造成 | 本荘市教委  |

◎は立会調査 ○は分布・範囲確認調査



昭和59年度県内調査遺跡位置図  
地図中番号は一覧表番号と対応



## (2) 県関係調査概要

|                       |                            |
|-----------------------|----------------------------|
| 遺 跡 名：風無台Ⅱ遺跡          | 所 在 地：河辺郡河辺町松淵字風無台110他     |
| 原 因：七曲臨空港工業団地造成工事     | 事業関係機関：秋田県商工労働部工業立地課       |
| 調査期間：昭和59年4月2日～5月31日  | 調査面積：11,600 m <sup>2</sup> |
| 担 当 者：大 野 憲 司・高 橋 忠 彦 | 時 期：旧石器時代                  |

七曲工業団地関係遺跡は、雄物川の支流岩見川の中流左岸、標高約40mの台地上に位置する。12箇所の遺跡のうち58年度4箇所、59年度8箇所を調査した。風無台Ⅱ遺跡は昨年からの継続調査で、縄文時代晩期の竪穴住居跡1軒、弥生時代中期の竪穴住居跡1軒、縄文時代晩期～弥生時代のフラスコ状土壙99基、弥生時代の土器埋設遺構1基を検出した。遺物には縄文、弥生時代の遺物の他、旧石器時代の石器、剥片約5,500点が出土した。この中には東北地方では初見の台形様石器が含まれている。

|                       |                           |
|-----------------------|---------------------------|
| 遺 跡 名：風無台Ⅲ遺跡          | 所 在 地：河辺郡河辺町松淵字風無台63他     |
| 原 因：七曲臨空港工業団地造成工事     | 事業関係機関：秋田県商工労働部工業立地課      |
| 調査期間：昭和59年5月4日～5月29日  | 調査面積：1,740 m <sup>2</sup> |
| 担 当 者：永 瀬 福 男・橋 本 高 史 | 時 期：縄文時代                  |

風無台Ⅱ遺跡の南方にある。遺構・遺物は極めて少なく、縄文時代のフラスコ状土壙1基を検出し、縄文時代の土器・石器が少数出土したのみである。

|                       |                           |
|-----------------------|---------------------------|
| 遺 跡 名：風無台Ⅴ遺跡          | 所 在 地：河辺郡河辺町松淵字風無台72他     |
| 原 因：七曲臨空港工業団地造成工事     | 事業関係機関：秋田県商工労働部工業立地課      |
| 調査期間：昭和59年5月12日～5月19日 | 調査面積：3,482 m <sup>2</sup> |
| 担 当 者：柴 田 陽一郎         | 時 期：縄文時代                  |

風無台Ⅱ遺跡東側の沢をはさんで約150m南東にある。昨年度850m<sup>2</sup>を調査済で、この継続調査を行った。縄文時代中期のフラスコ状土壙1基を検出し、土器・石器が少数出土した。

|                     |                           |
|---------------------|---------------------------|
| 遺 跡 名：松木台Ⅰ遺跡        | 所 在 地：河辺郡河辺町松淵字松木台97他     |
| 原 因：七曲臨空港工業団地造成工事   | 事業関係機関：秋田県商工労働部工業立地課      |
| 調査期間：昭和59年4月12日～28日 | 調査面積：2,520 m <sup>2</sup> |
| 担 当 者：柴 田 陽一郎       | 時 期：縄文時代・弥生時代             |

風無台Ⅱ遺跡の南西に位置し、遺跡の北側及び西側に沢が入り込む。西端部より弥生時代の焼土遺構、土器埋設遺構各1基が検出され、この時代の土器・石器の他、縄文時代中期・後期の土器・石器が少数出土した。

|                      |                           |
|----------------------|---------------------------|
| 遺 跡 名：松木台Ⅱ遺跡         | 所 在 地：河辺郡河辺町松淵字松木台81他     |
| 原 因：七曲臨空港工業団地造成工事    | 事業関係機関：秋田県商工労働部工業立地課      |
| 調査期間：昭和59年4月2日～5月31日 | 調査面積：7,464 m <sup>2</sup> |
| 担 当 者：児 玉 準・小 林 克    | 時 期：旧石器時代・縄文時代・平安時代       |

風無台Ⅱ遺跡の西側にあり、松木台Ⅰ遺跡とは沢をはさんでその北側にある。縄文時代のフラスコ状・袋状土壙41基、土器埋設遺構3基、配石1基、石囲炉1基、焼土遺構25基の他、平安時代の土壙1基が検出された。遺物には旧石器時代の石核、台形様石器、剥片約2,500点、大洞C<sub>1</sub>式期の土器、石器、平安時代の須恵器□が1点出土した。フラスコ状土壙は南北2箇所にとまりが見られるが、このうち南端のとまりには石囲炉、焼土遺構が伴っている。旧石器時代及び縄文時代の遺構、遺物は風無台Ⅱ遺跡との関連が考えられる。

|                       |                           |
|-----------------------|---------------------------|
| 遺 跡 名：石坂台Ⅰ遺跡          | 所 在 地：河辺郡河辺町戸島字七曲石坂台141他  |
| 原 因：七曲臨空港工業団地造成工事     | 事業関係機関：秋田県商工労働部工業立地課      |
| 調査期間：昭和59年8月22日～9月22日 | 調査面積：3,728 m <sup>2</sup> |
| 担 当 者：大 野 憲 司・高 橋 忠 彦 | 時 期：縄文時代                  |

遺跡群の南端にあり、標高は48mと最も高位にある。縄文時代中期の竪穴住居跡6軒、中期～晩期の土壙19基のほか、縄文時代のTピット1基、焼土遺構2基が検出され、遺物には縄文時代前期初頭～晩期の土器片及び石器が出土した。遺構は遺跡内東部から北部にかけての台地縁辺部に沿って検出されており、竪穴住居跡のうち3軒は中期末葉の土器埋設複式炉を有し、径3～4mの円形を呈する。土壙は円形ないし楕円形を呈し、人頭大の石を配したもののや、完形土器を伴うものがある。

|                       |                           |
|-----------------------|---------------------------|
| 遺 跡 名：石坂台Ⅱ遺跡          | 所 在 地：河辺郡河辺町戸嶋字七曲石坂台52他   |
| 原 因：七曲臨空港工業団地造成工事     | 事業関係機関：秋田県商工労働部工業立地課      |
| 調査期間：昭和59年4月12日～5月2日  | 調査面積：3,670 m <sup>2</sup> |
| 担 当 者：永 瀬 福 男・橋 本 高 史 | 時 期：縄文時代・弥生時代             |

風無台Ⅲ遺跡の南にあるが、標高は若干高くなり、45mほどである。縄文時代中期末葉の竪穴住居跡1軒、土壙4基が検出された。土壙のうち1基はフラスコ状である。遺物には縄文中期の土器・石器の他、弥生時代の土器が少数出土した。

|                       |                           |
|-----------------------|---------------------------|
| 遺 跡 名：石坂台Ⅲ遺跡          | 所 在 地：河辺郡河辺町戸島字七曲石坂台232他  |
| 原 因：七曲臨空港工業団地造成工事     | 事業関係機関：秋田県商工労働部工業立地課      |
| 調査期間：昭和59年5月28日～6月21日 | 調査面積：5,720 m <sup>2</sup> |
| 担 当 者：大 野・柴 田・高 橋・小 林 | 時 期：縄文時代                  |

石坂台Ⅱ遺跡の南西にあり、遺跡群の中でも最も南西端にある。標高は45m前後である。縄文時代中期～晩期の土壙19基、中期の土器埋設遺構1基、焼土遺構1基が検出され、土器・石器が少数出土した。土壙の大部分は袋状を呈するものであるが、他にTピット1基、墓壙と思われる小型円形土壙などが含まれている。



|                                  |                           |
|----------------------------------|---------------------------|
| 遺 跡 名： <sup>ほつ たのさくあと</sup> 払田柵跡 | 所 在 地：仙北郡仙北町払田、千畑村本堂城廻    |
| 原 因：払田柵跡学術調査                     | 事業関係機関：払田柵跡調査事務所          |
| 調査期間：昭和59年4月2日～11月6日             | 調査面積：1,276 m <sup>2</sup> |
| 担 当 者：船 木 義 勝・山 崎 文 幸            | 時 期：平安時代                  |

、第55～59次の計5地区の調査を実施した。第55次発掘調査では内郭南門の西部を調査し、築地1、整地地業3、溝7、井戸跡4、土壌19等を検出した。築地の構築に石が使用されているのが注目される。また、整地地業中より「□公隊□人」と判読できる第18号木簡を含めて5点の木簡が出土している。第56・59次発掘調査では外郭北東部における外郭線の位置を確認できた。

|                                |                         |
|--------------------------------|-------------------------|
| 遺 跡 名： <sup>ひろさわやま</sup> 広沢山遺跡 | 所 在 地：湯沢市山谷字広沢山1－1      |
| 原 因：国道398号線改良工事                | 事業関係機関：秋田県土木部雄勝土木事務所    |
| 調査期間：昭和59年9月10日～10月5日          | 調査面積：575 m <sup>2</sup> |
| 担 当 者：永瀬福男・桜田 隆・橋本高史           | 時 期：平安時代                |

湯沢市から稲川町へ向う国道398号線、山谷峠手前の広沢山南側斜面に遺跡が立地（標高160m～163m）する。山下孫継氏と湯沢市教育委員会が昭和30年・31年の2回にわたり「取上石山土師窯跡」として調査し、竪穴住居跡と土師窯跡を確認したというが、今回の調査では再確認できなかった。

遺物は古代の甗形土器と、払田柵跡で嘉祥2年銘木簡が共伴した土器と同類の所謂叩き締め（叩き目）のある甗形土器の破片がコンテナで2箱分出土したのみである。

|                       |                           |
|-----------------------|---------------------------|
| 遺 跡 名：カウヤ遺跡           | 所 在 地：由利郡象潟町小砂川字アマクラ53他   |
| 原 因：国道7号線小砂川バイパス建設工事  | 事業関係機関：東北地方建設局秋田工事事務所     |
| 調査期間：昭和59年8月1日～9月8日   | 調査面積：1,887 m <sup>2</sup> |
| 担 当 者：柴 田 陽一郎・橋 本 高 史 | 時 期：平安時代・江戸時代             |

南は山形県境まで1km、西は日本海の汀線まで200mの所に位置する。標高22～30mで、南西に傾斜する砂丘上の畑地である。遺跡は南西から北東に細長く延びており、今回の調査対象地は遺跡の南西端にあたり、来年度以降も調査が予定されている。検出遺構は平安時代の焼土遺構1基、時期不明の土壌1基である。出土遺物は少ないが、焼土遺構の周辺から平安時代の製塩土器と須恵器片、他に寛永通宝や土錘、石錘などが出土した。県内の擬定製塩関係遺跡は男鹿半島付近に多いが、県南部では初めてのことである。

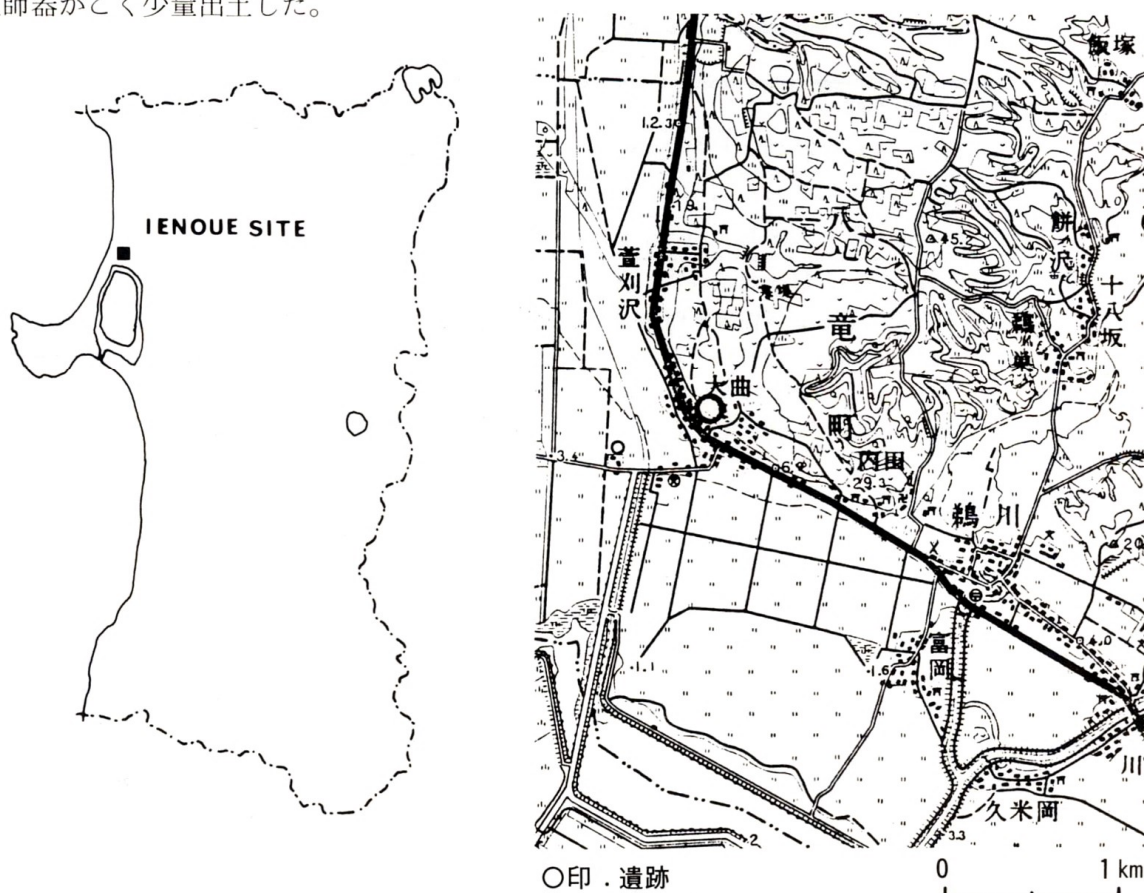
### (3) 立会調査報告

## 家の上遺跡調査報告

家の上遺跡は山本郡八竜町鶴川字大曲家の上にある。昭和57～59年度に渡って行なわれた、県山本工事事務所による大曲地区地滑り対策工事が遺跡の一部にかかるため、昭和58年9月1～5日、59年7月25～27日に工事立会調査を実施した。

遺跡地は八竜町のほぼ中央部、標高25mの段丘上にあり、西に面した斜面が工事対象となった。斜面下は国道7号線が南北に走り、道路に沿って住宅が建ち並んでいる。この付近の国道7号線の標高は6～7mであるから、遺跡との比高は18mほどある。台地上は畑地となっており両年度ともこの平坦面を60～70㎡ほど調査した。

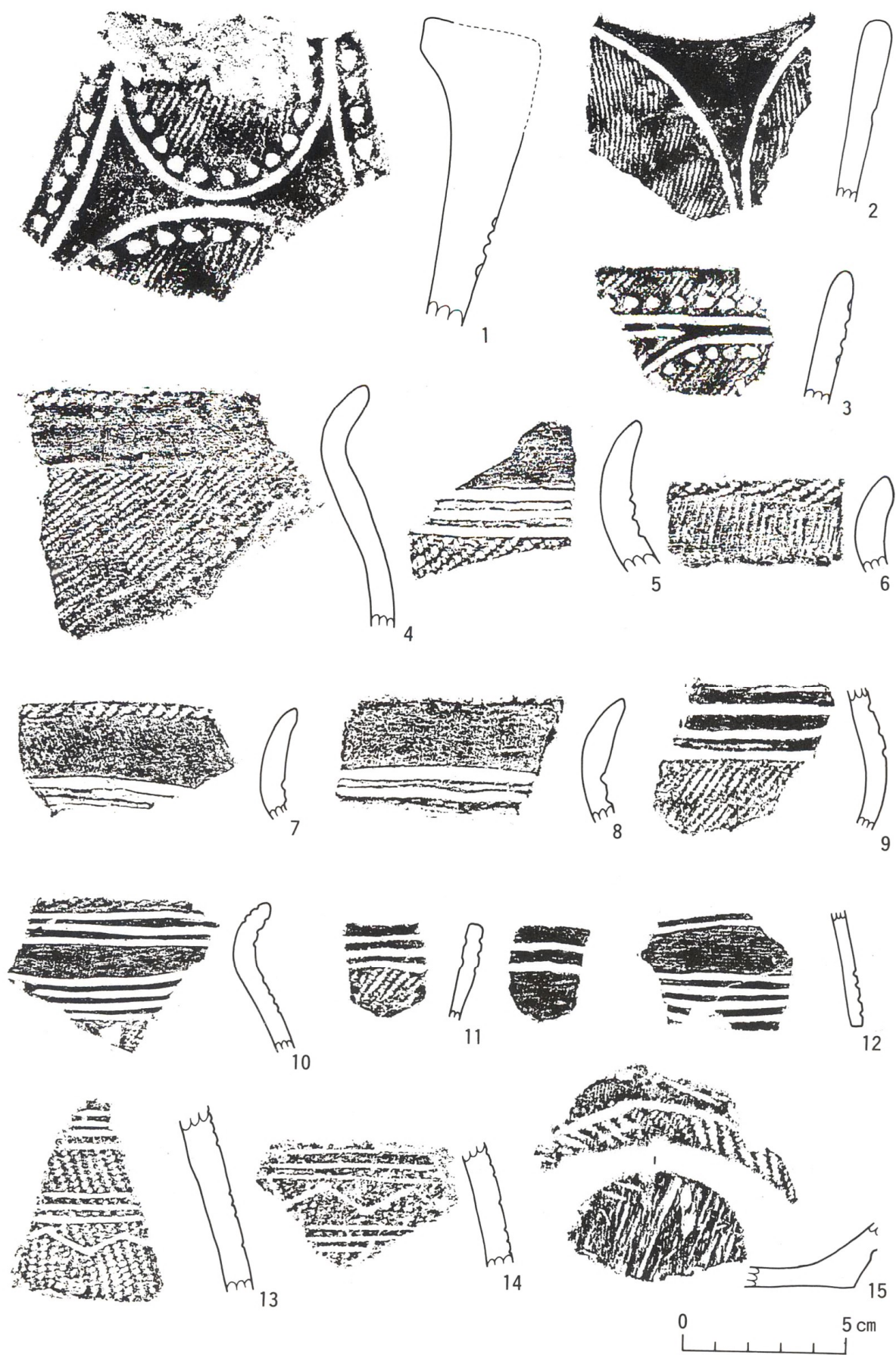
調査地点の土層は、Ⅰ層が黒褐色の耕作土、Ⅱ層黒色土、Ⅲ層褐色土、Ⅳ層黒褐色土で、Ⅴ層が褐色の地山となる。Ⅲ層上面に径80cmの円形に焼土が見られた他に遺構は検出されなかった。この焼土内からは縄文時代後期の土器、平安時代の土師器の細片が出土しており、畑地であるために攪乱を受けているものと考えられる。他にⅠ～Ⅲ層内から縄文後期の土器、弥生土器土師器がごく少量出土した。



第1図 遺跡の位置

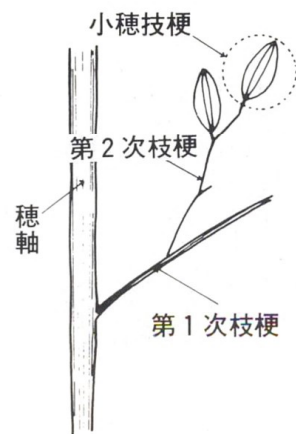
国土地理院発行五万分ノ一「森岳」使用





第2図 家の上遺跡出土土器

第2図1～3は発掘地点付近の畑地から採集されたものであるが、沈曲線による画線内に縄文を充填し、沈線に沿って列点文を施した縄文後期中葉の土器である。畑地には多くの遺物の散布が見られ、この時期の遺跡の拡がりが推察される。4～15は弥生土器である。4～8は甕口頸部、12は高坏台部、13・14は平行沈線と鋸歯文の施された甕の胴上半部、15には磨消縄文が施されているが、器種は定かでない。全体的には志藤沢式に含まれるが、4・9・15などは古相を帯びており、横長根A遺跡出土土器の時期に、13・14は三十刈I遺跡出土土器の時期にそれぞれ比定される。



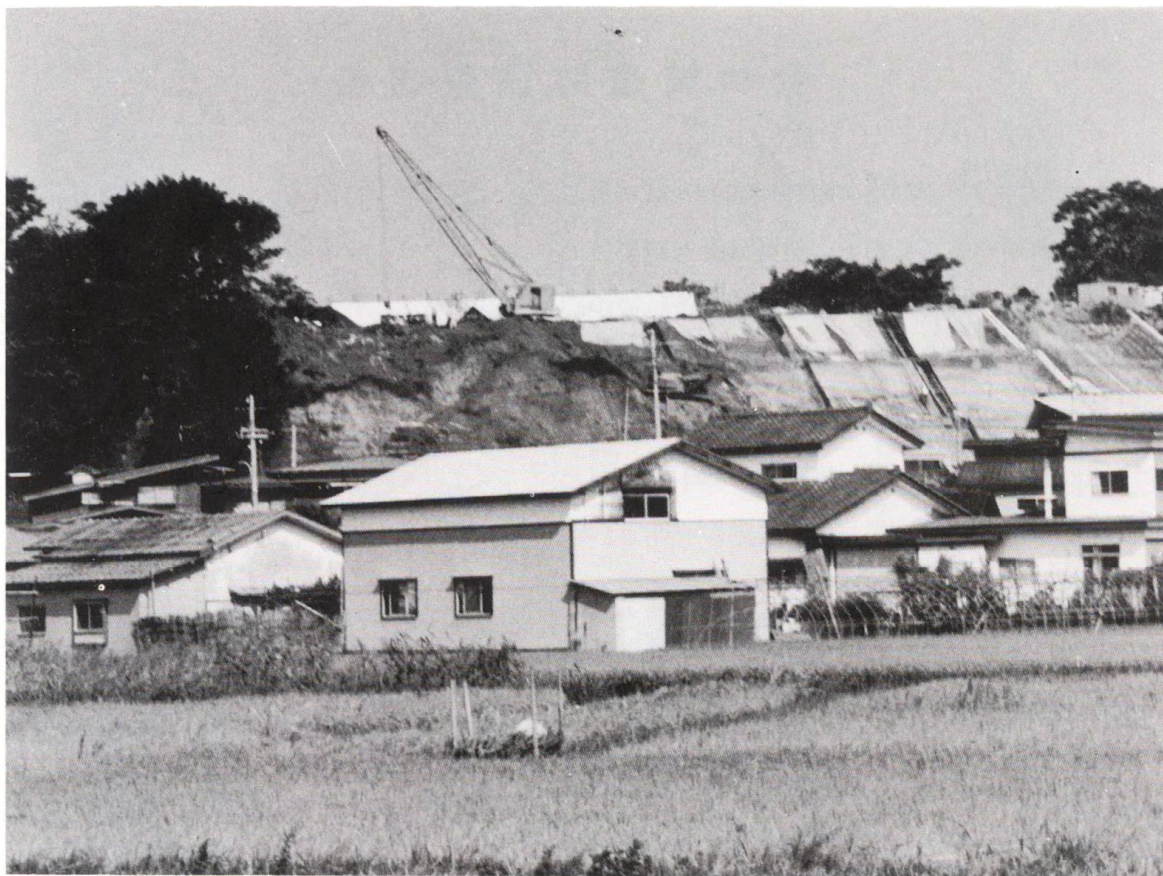
鈴木元彦氏の教示による

15の土器の底部にはほぼ同一方向に並ぶ植物圧痕と2個の粃痕が認められる。昭和58年10月16日、能代市文化会館で行なわれた秋大史学会、能代・山本地方史研究会合同大会において若美町横長根A遺跡の発掘調査に関する報告を行ったが、その際この土器のスライドを粃痕のある弥生土器の一資料として映写したところ、翌17日付で、県立宮農大学校副校長鈴木元彦氏より、単に粃痕と見るよりも穂痕と考えられる旨の来信を受けた。そこで同月29日、この土器と底面拡大写真を県立宮農大学校へ持参し、鈴木氏より直接観察いただいた。鈴木氏は、①同一方向に並ぶ植物茎状圧痕には網目状の組織が見られるから、この植物は少くともイネ科植物の一種である。②土器底面中央にあるやや幅の広い条を穂軸とすると、穂軸から右斜め上方にのびる第1次枝梗と、さらに第1次枝梗からのびる第2次枝梗が見え、粃痕はこの第2次枝梗上にある。③粃痕の下方には小穂枝梗の一部が観察される。④粃粒だけが落ちていた場合、穂軸と並び、しかも2個ともに同一方向を向く率は非常に少ないであろう。加えて2個の粃痕の下方にも「しいな」の痕跡と思われるものが見え、この方向も2個の圧痕の方向に近い。以上の観察を根拠として、長年農業改良普及員としてイネを見なれた目で見るとやはり穂軸を並置した中に稲穂の一部が混入していたものが圧痕となったと考えるのが妥当であろうと御教示された。

県内からも弥生時代の粃痕付着土器は数例出土しているが、明らかに穂痕である例はなく、また、穂痕であれば単なる粃痕よりも、遺跡付近での稲作農耕を証する材料としてはいっそう価値が高い。家の上遺跡では台地上に集落を構え、この下の八郎潟に面する低地において稲作が行なわれていたと考えてよいであろう。

農学専門の立場から甚だ有益な御教示を下された鈴木元彦氏に厚く感謝申し上げる次第である。





家の上遺跡遠景



弥生土器底部の稲穂痕 × 2



## 金ヶ崎遺跡調査報告

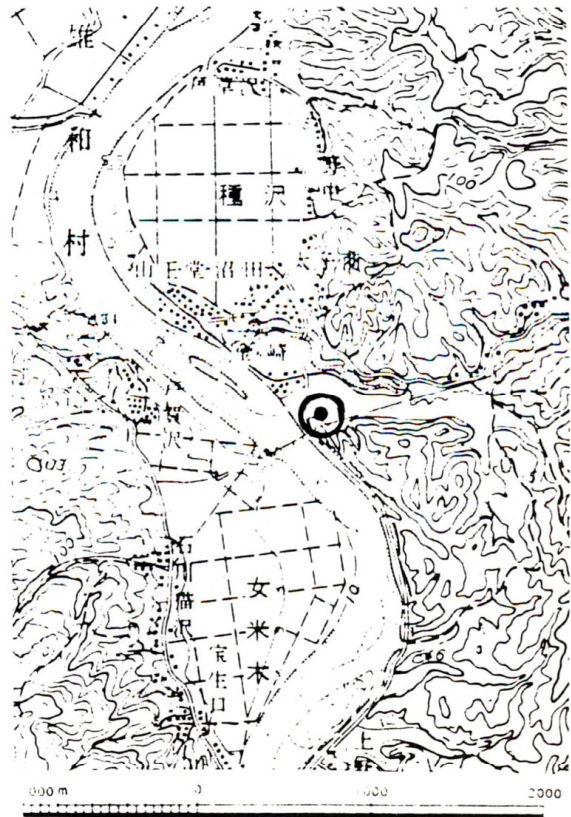
金ヶ崎遺跡は河辺郡雄和町種沢字金ヶ崎にある縄文時代前期の遺跡である。遺跡は金ヶ崎集落の南、県道河辺・雄和線の沿道にある。遺跡の中心は現在公園となっている。遺跡の縁辺を県道が走り、その直ぐ西側は雄物川が北に流れている。

今回の調査は県道河辺・雄和線の幅1mにわたる拡幅工事に遺跡の一部に係ることが判明し、法的手続きをとった上、立会調査を実施する旨を指示していたものである。昭和59年4月13日付、秋土——205で秋田土木事務所長より調査依頼があり、昭和59年5月7日、文化課富樫が立会調査を実施した。

調査の結果、遺物包含層（長さ4m、幅80cm、厚さ14～30cm）を確認し、図示したような土器・石器が出土したが、遺構は確認できなかった。

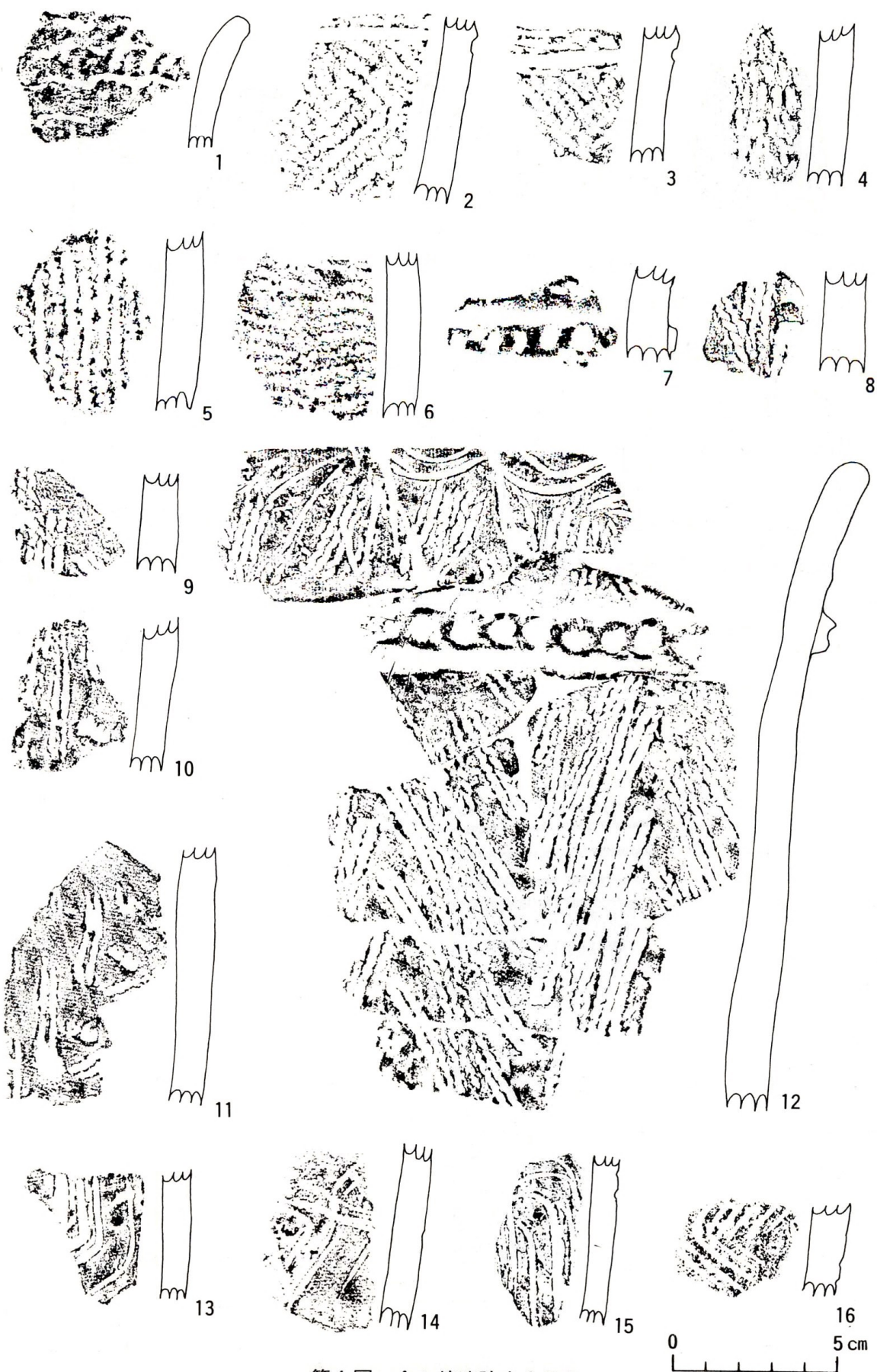
出土した遺物は縄文時代前期の土器及び石器である。土器は1～16及び22で、完形品は22の1点だけである。口径17cm、高さ21cm。口唇部は小波状をなし、口縁部がゆるやかに開く深鉢形を呈す。文様は頸部の二条（平行）の刺突文を境に口縁部文様帯と胴部文様帯とに区画される。口縁部文様帯は複々節の縄を押し付けた縄線文が四条施され、胴部は縦走羽状縄文である。焼成良好。1は条自身で結節を作って燃りを止めた原体を横位に回転した縄文・綾絡文の施された土器と思われる。2、3は同一個体。4は多軸絡条体が原体と思われる。5、6のように施文の方向を変えた縄文がある。9～12は同一個体。口縁は平縁で少し外反する深鉢形の土器である。口縁から胴体にかけてLとRの2条を対にした木目状燃糸文が施され、頸部には刺突の施された隆帯が横位に一条走る。また口縁部に沈線で二条一対の弧状文が施されているが器面全体に連続して施されていたか否かははっきりしない。13～16は沈線文の施された土器であるが、器形・文様構成など不明。これらの土器は前期の円筒下層c式期のものであるが、円筒土器の栄えた地域外であるため若干異質な要素が見られる。

石器は17～21に図示したとおりで、石鏃、石匙（縦形）、石篋の類である。石材は石篋（泥岩）を除いて頁岩である。

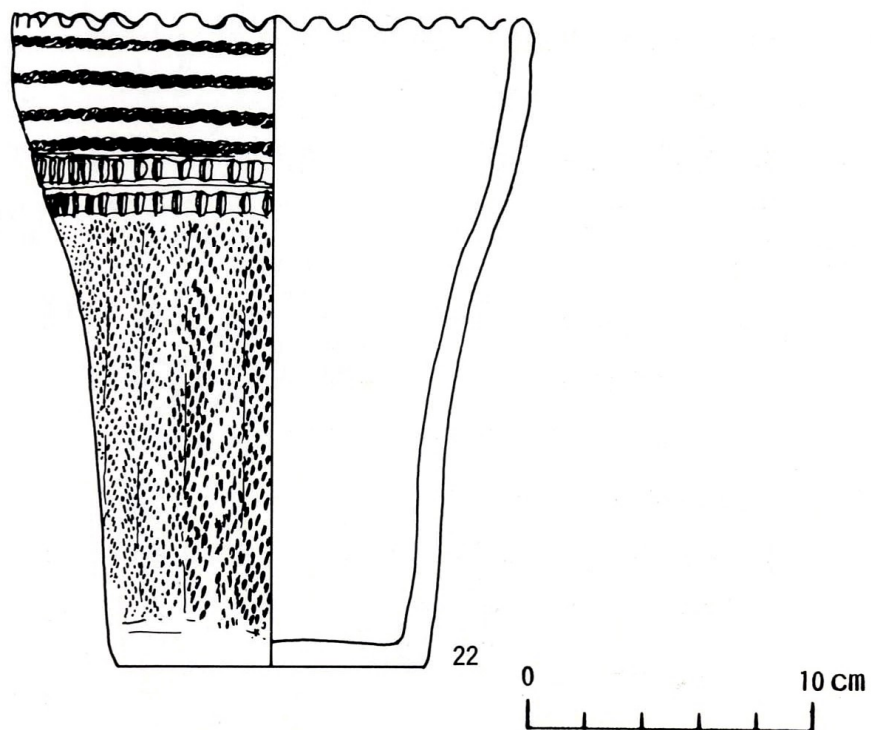
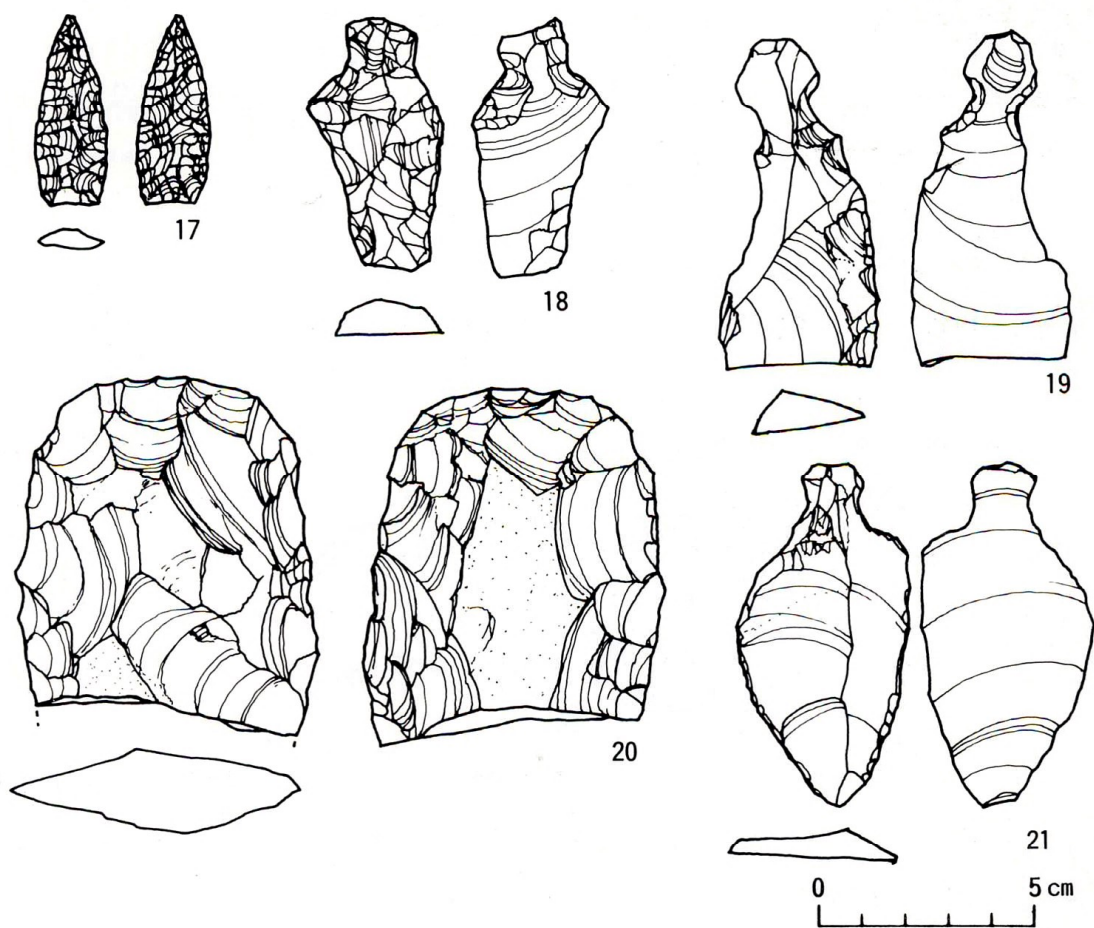


遺跡の位置





第1図 金ヶ崎遺跡出土遺物



第2図 金ヶ崎遺跡出土遺物



#### (4) 研修事業

##### ① 昭和59年度秋田県埋蔵文化財センター研修会

- i) 日時 昭和59年10月22日（月）～10月23日（火）
- ii) 場所 秋田県埋蔵文化財センター
- iii) 対象 秋田県埋蔵文化財センター職員、市町村文化財関係職員
- iv) 内容 研修テーマ「石器についての理解を深めよう ― 旧石器を中心にして ― 」

###### 第1日

- a 「縄文時代の石器の種類」…………… 永瀬 福男
- b 「旧石器の種類と機能」…………… 高橋 忠彦
- c 「遺跡における旧石器のあり方」…………… 小林 克
- d 「旧石器の製作技法」…………… 大野 憲司
- e 「実習―石器を作ってみよう―」

###### 第2日

- a 「県内出土の旧石器―遺跡と遺物―」…………… 副所長 岩見 誠夫
  - b 講演「旧石器文化の流れ」……………筑波大学教授 第一学群人文学類長 加藤 晋平
- 質問・自由討議

##### ② 昭和59年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会

- i) 日時 昭和60年3月17日（日）
- ii) 場所 大曲仙北広域交流センター
- iii) 対象 一般市民
- iv) 報告遺跡
  - a 七曲台遺跡群…………… 大野 憲司・高橋 忠彦
  - b 黒倉B遺跡…………… 児玉 準
  - c 払田柵跡第55次調査（内郭南門西部）…………… 山崎 文幸
  - d 払田柵跡10年間の発掘成果…………… 船木 義勝

なお、昭和60年3月15日（金）～3月19日（火）の間、大曲市タカヤナギデパート5階催事場において、上記遺跡の他3遺跡の写真、出土遺物を展示した。



講演する加藤晋平筑波大学教授



石器製作実習





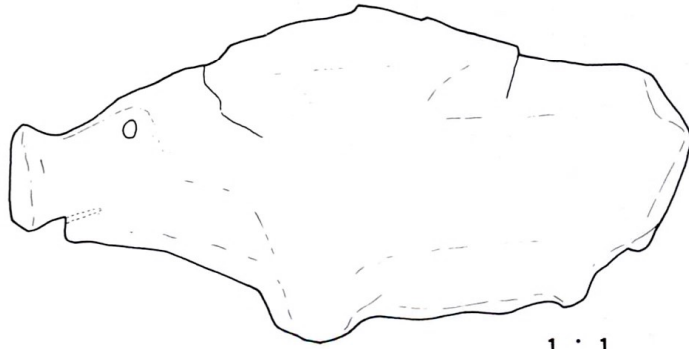
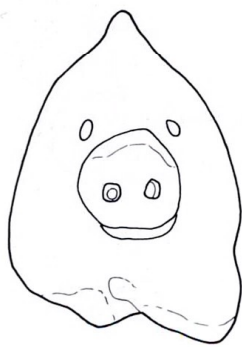
報 告 会



写真、出土遺物の展示



## 2 資料紹介

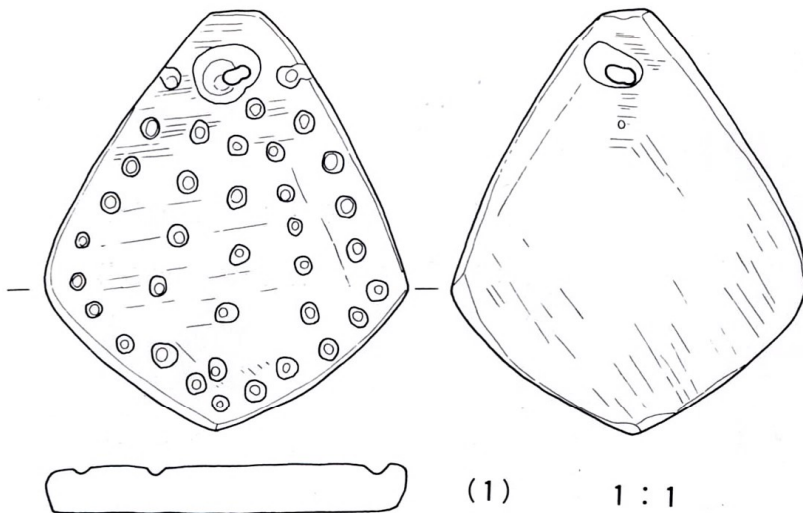


1 : 1

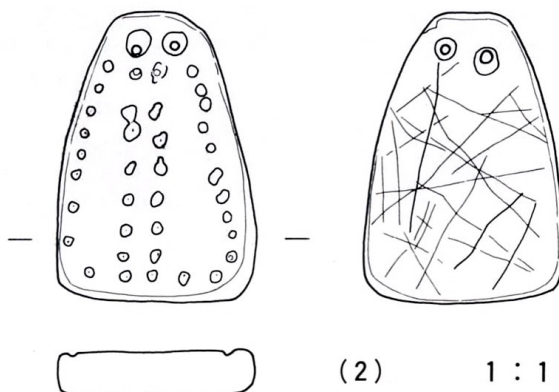
猪形土製品（鷹巣町藤株遺跡出土）

共伴した土器から縄文時代後期に属するが、胴体に鼻・脚・尾を貼り付けただけで、同時期の資料に比して若干の稚拙さを感じる。縄文人の狩猟対象となった陸棲の大型獣は、猪・鹿・熊などで、この製品はそれら大型獣の狩猟に関する儀礼に使用されたのであろうか。現在の猪の棲息北限は福島県であるが、五城目町中山遺跡からは骨が多数出土しているから、縄文時代には県内にも棲息していたことが明らかである。土製品としては県内初見である。

有孔石製品（小坂町大岱Ⅳ遺跡出土）



(1) 1 : 1



(2) 1 : 1

縄文時代前期の捨て場から出土したもので、いずれも上部に貫孔を有しており垂飾品と考えられる。両者共、2個1対の孔を穿つが、(1)の場合は2個の孔が連結してしまい、広がった形を示す。意匠として片面に浅い丸孔を連続して施している。丸孔は先の尖った棒状工具を回転させて施したものと思われる。石質は凝灰岩で、全体を平滑に磨いている。鹿角市天戸森遺跡（縄文中期）で形状の類似したものが出土している他、青森県山崎遺跡（縄文前期）では本遺跡の場合と同様に捨て場より出土している。



### 3 センター日誌抄

#### 昭和 59 年

- 4 月 2 日 齊藤養治郎所長着任。昭和59年度発掘調査開始。
- 4 月14日 佐賀県立九州陶磁文化館前山博学芸課長、大橋康二資料係長資料調査。
- 5 月15・16日 名古屋大学渡辺誠助教授資料調査。
- 5 月17日 国士館大学大川清教授、戸田有二助教授視察。
- 5 月29日 テネシー州立大学ウェイン ファリス助教授視察。
- 6 月 2 日 相愛大学直木孝次郎教授、宮城学院女子短期大学工藤雅樹助教授視察。
- 7 月 3 日 東北歴史資料館村山斌夫保存科学科長、小井川和夫考古研究科長資料調査。
- 7 月 4 日 山形南高等学校加藤稔教諭資料調査。
- 7 月31日 東北歴史資料館桑原滋郎学芸部長視察。
- 8 月 1 日 京都市埋蔵文化財センター職員視察。
- 9 月12日 文化庁岡本東三文化財調査官視察、指導。
- 9 月26・27日 秋田大学新野直吉教授、国立歴史民俗博物館岡田茂弘教授視察。
- 9 月26日 愛知県教育サービスセンター職員視察。
- 10月 1 日 福井県立博物館職員視察。
- 10月 3 日 京都大学原子炉実験所職員資料調査。
- 10月 7 日 国学院大学小林達雄助教授、国立歴史民俗博物館春成秀爾助教授、早稲田大学金子浩昌講師、東北歴史資料館岡村道雄、技師釜石南高等学校菊地強一教諭資料調査。
- 10月16日 群馬県教育庁文化課職員視察。
- 10月19日 奈良国立文化財研究所坪井清足所長、お茶の水女子大学青木和夫教授視察、国立歴史民俗博物館平川南助教授資料調査。
- 10月23・24日 昭和59年度埋蔵文化財センター研修会。講師筑波大学加藤晋平教授。
- 10月25日 群馬県埋蔵文化財事業団職員視察。
- 10月29日 東京都埋蔵文化財センター職員視察。
- 11月 8 日 昭和59年度の発掘調査終了。
- 12月18日 北海道埋蔵文化財センター職員視察。

#### 昭和 60 年

- 1 月28日 福島県文化課職員視察。
- 3 月17日 昭和59年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会。

# 秋田県埋蔵文化財センター職員録

|           |                       |
|-----------|-----------------------|
| 所 長       | 齊 藤 養治郎               |
| 副 所 長     | 岩 見 誠 夫               |
| 主 査       | 加 藤 進                 |
| 主 事       | 佐 藤 健                 |
| 社会教育主事    | 永 瀬 福 男               |
| 学 芸 主 事   | 船 木 義 勝               |
| 社会教育主事    | 大 野 憲 司               |
| 社会教育主事    | 熊 谷 太 郎               |
| 文 化 財 主 事 | 桜 田 隆                 |
| 文 化 財 主 事 | 柴 田 陽一郎               |
| 文 化 財 主 事 | 児 玉 準                 |
| 文 化 財 主 事 | 高 橋 忠 彦               |
| 文 化 財 主 事 | 橋 本 高 史               |
| 文 化 財 主 事 | 小 林 克                 |
| 主 事       | 山 崎 文 幸（仙北町教育委員会派遣職員） |
| 臨 時 職 員   | 藤 井 幸 誠               |
| 臨 時 職 員   | 小 山 内 透               |
| 非常勤職員     | 越 後 耕 一               |



秋田県埋蔵文化財センター年報 3

(昭和59年度)

昭和60年3月31日発行

発 行 秋田県埋蔵文化財センター

秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地

電話 0187 - 69 - 3331

印 刷 仙 北 印 刷 所

秋田県大曲市栄町10番地23号

電話 0187 - 63 - 2121